

SDGs について考えてみませんか？

猿田光一（土佐清水ジオパーク事務局次長）



SDGsってなんだろう？

「SDGs」（エスディージーズ）は、国連が提唱し、2015年9月25日に国連総会で採択された「Sustainable Development Goals」（サステイナブル ディベロップメント ゴールズ）の略称であり、日本語では、「持続可能な開発目標」と訳され、2016年～2030年までの15年間の期間としています。実は、ユネスコのプログラムである「ジオパーク」と「SDGs」は「持続可能な社会づくりを目指す」という点で、目的を共有しています。

私たちとSDGs

世界中で取り組みが進められている「SDGs」ですが、規模が大きすぎるため、「私には、関係ない」という声も聞こえてきそうです。ですが、本当にそうでしょうか？
例えば、17ある目標のうち、「目標13気候変動に具体的な対策を」について考えてみましょう。人間の活動による二酸化炭素などの温室効果ガスが原因で起きている気候変動。冬も暖かくなって良いと楽観的に考える方もいるかもしれませんが、今年の夏はいつも以上に暑かったことを記憶されていると思います。土佐清水の8月の平均気温（1991～2020）は、27.7℃でしたが、2024年の平均気温は、29.4℃となっています。竜串湾では海水温の上昇による造礁サンゴの白化（はっか）※が大規模に起こり、大変心配されました。

※サンゴの白化現象：海水温の上昇などにより、サンゴと共生している褐虫藻がいなくなりサンゴが真っ白になってしまう現象。褐虫藻からの栄養を受けることができなくなり、サンゴが死滅してしまうこともある。



暮らしの中で取り組みを

このように、気温が上がることによって、環境や生態系に影響があり、農作物の収穫量、漁獲量が不足すると、食料品の価格が上昇し、家計への負担も大きくなってきます。こう考えると、温暖化などの気候変動について、私たちも「無関係ではない」ということが言えるのではないのでしょうか？それでは、気候変動を抑えるために、「どんなことをすれば良い」と思いますか？

例として【地産地消】はどうでしょう。地産地消とは、地域で生産された農作物などを、その地域で消費する取り組みです。輸送コストやエネルギーを節約し、二酸化炭素の削減にもつながります。

普段の買い物で、できるだけ地元のものを買う。「あれ、思ったより簡単」と思った方も、もっと言えば、「もう実行している」というご家庭も多いのではないのでしょうか。SDGs 活動というと難しく感じるかもしれませんが、上記のような小さな取り組みの積み重ねが何より大切だと思います。地産地消のように、地域をよく知り、地域のものを活用していくというのはジオパークにもつながってくることですね。



一緒に活動しませんか

地球にやさしく、家計にやさしい取り組み、その考え方、活動が広がることによって、大切な地球を美しい状態で未来へバトンタッチすることにもつながります。「自分一人くらい・・・」ではなく、「自分がやる！」との意識変革から一緒に始めてみませんか。

わたしたちの取り組み

土佐清水ジオパーク推進協議会はSDGs達成に向けて取り組んでいます。



防災教育などを通じて、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。



自動販売機の収益の一部をサンゴ保全のために寄付しています。令和5年度に76,371円寄付しました。

お正月は「うみのわ」でSDGs宣言！



2025年に取り組みたい目標を、竜串の海に向かって大きく宣言してみませんか？SDGs 風揚げもありますよ！

発行

一般社団法人土佐清水ジオパーク推進協議会

〒787-0450

土佐清水市三崎4032-2

TEL 87-9590

MAIL geopark@tosashimizu-geo.jp

WEB

